

## 平成 23 年度 第 1 回卒論中間発表会ならびにレポート執筆について

### 1. 第 1 回卒論中間発表会にかんして

対象者： 平成 23 年度（平成 24 年 3 月）に卒業予定の学生（現 3 年生以上）

日時： 2010 年 12 月 8 日（水）、10 時～16 時（予定）

発表時間： 30 分（発表 10-15 分、質疑応答 15-20 分）

場所： 文学部中庭会議室／待兼山会館 2 階会議室

※特別の事情により、発表日時の調整を必要とする場合は、すみやかに助教まで申し出ること。

#### 《卒論中間発表会にむけての準備・提出物》

(1) 発表題目の提出期限 2010 年 11 月 24 日（水）午後 4 時 00 分

(2) 報告レポートの提出期限 2010 年 12 月 1 日（水）午後 4 時 00 分

締切厳守。提出が遅れた場合は受理しないし、いかなる言い訳も認めない。

#### 《今後のスケジュール》

|                  |              |
|------------------|--------------|
| 平成 23 年 5 月中旬～下旬 | 第 2 回卒論中間発表会 |
| 10 月中旬           | 卒業論文題目提出期間   |
| 10 月下旬～11 月上旬    | 第 3 回卒論中間発表会 |
| 平成 24 年 1 月上旬    | 卒業論文提出期間     |
| 1 月下旬～2 月上旬      | 卒業論文口頭試問     |

### 2. レポート、レジュメの体裁

#### 《レポート》

分量 3,000 字程度（400 字詰め原稿用紙換算で 8 枚程度）

体裁 A4 サイズ・横書き・1 ページあたり 40 行×25 字を目安にすること。

#### 作成・提出にあたっての注意事項

- (1) 表紙、参考文献一覧、発表要旨の順番に並べて、最終ページまでページ番号をつけること。

- (2) 表紙には、発表題目、名前、所属、学年、学籍番号を明記すること。
- (3) 参考文献一覧には、参考文献と予定参考文献とをそれぞれ分類して書くこと。  
またそのさいには、日本語文献と外国語文献とを分けて書くこと。
- (4) レポートは手書きでなく、PCで作成し、提出にさいしては各自8部用意したうえで、  
左上をホチキスで留めること。なお、コピーにあたり公費の使用を認めます。

#### 《レジュメ》

卒論中間発表会で配布するレジュメは、以下の点に留意して用意して下さい。

- (1) 着想の経緯： ①問題関心・研究対象、②時代背景、③研究史（先行研究の紹介）
- (2) 研究計画： ④入手・閲覧可能な史料、外国語文献の見通しなど
- (3) 参考文献一覧

\*レジュメは、各自40部ずつ用意すること。

### 3. 参考文献の表記法について

#### 《日本語文献》

- ・著者名、論題、編著者名、書名、出版社、出版年、頁。
- ・論題には「…………」、書名には『…………』を使用する。

(単行本／単行本所収論文)

- (1) 秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序——ヘゲモニー国家から帝國的な構造的権力へ——』名古屋大学出版会、2003年。
- (2) リンダ・コリー（川北稔監訳）『イギリス国民の誕生』名古屋大学出版会、2000年。

\*翻訳の場合、(2)のように著者名のうしろに訳者名を括弧でくくって表記する。

\*出版社と出版年を括弧でくくって表記する場合もある。

例) 秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序——ヘゲモニー国家から帝國的な構造的権力へ——』（名古屋大学出版会、2003年）。

(論文)

- (1) 中村武司「ネルソンの国葬——セント・ポール大聖堂における軍人のコメモレイション——」『史林』91巻1号（2008年）、176-197頁。
- (2) 竹中亨「ジーマス社の対日事業」、工藤章・田島信雄編『日独関係史 1890-1945 I——総説／東アジアにおける邂逅——』東京大学出版会、2008年、221-264頁。

## 《外国語文献》

- ・書名はイタリックで表記すること。
- ・論文のタイトルには ‘ ’ をつけるのが一般的。またフランス語文献やドイツ語文献ではそれぞれ異なった表記法、《 》 や „ ” がある。

### (単行本)

- (1) Holger Hoock, *Empires of the Imagination: Politics, War, and the Arts in the British World, 1750-1850*, London, 2010.
- (2) Cannadine, David (ed.), *Empire, the Sea, and Global History: Britain's Maritime World, c.1763-c.1840* (Basingstoke, 2007).

\* (2) であげたように、著者・編者の姓と名を逆転して表記することもある。また、出版地・出版年を括弧でくくって表記することもある（イギリス史ではそちらのほうが一般的）。日本語文献の場合もそうだが、かならず表記法は文献リストのなかで統一すること。

### (論文)

- (1) Bob Harris, ‘American Idols’: Empire, War and the Middling Ranks in Mid-Eighteenth-Century Britain’, *Past & Present*, 150 (1996), pp.111-141.
- (2) Colley, Linda, ‘Britishness and Otherness: An Argument,’ *Journal of British Studies*, xxxi (1992), pp.309-329.
- (3) Patrick O’Brien, ‘Inseparable Connections: Trade, Economy, Fiscal State, and the Expansion of Empire, 1688-1815’, in P.J. Marshall (ed.), *The Oxford History of the British Empire II: The Eighteenth Century* (Oxford, 1998), pp.53-77.

\* (1)、(2) の網掛け部分、イギリス式とアメリカ式の違いに注意。

\* (3) 論文集に収められている場合

\* 学術雑誌の巻数は、アラビア数字で 15 でもローマ数字で xv、XV と表記してもよい。

## 4. 文献調査の方法

- ・OPAC や Webcat など、インターネットを利用すればかなりの情報収集は可能。詳しくは、参考資料を確認してほしい。
- ・参考文献や註をいもづる式に探すのが基本。
- ・外国語文献の調査方法や入手方法は、その分野を専攻している教員、助教、院生に尋ねるのが一番確実である。

- ・西洋史研究室ウェブサイトには、大阪大学で利用可能なオンライン・ジャーナルのリストが掲載されているので、参考にしてほしい。

## 5. さいごに……

わからないことは研究室の先生方や先輩に聞けば教えてくれるので、遠慮せずどんどん先輩と話をし、尋ねること。研究を進める上で人と話をすることは非常に重要です。ただし、以下の礼儀は守ること。

(1) 先生方は大変お忙しいので、相談を希望する場合は「オフィス・アワー」を利用するか、事前にアポイントをとること（先生方は毎日出校するとは限りません。特に授業のない期間には注意）。院生にたいしても自分たちの勉強時間をさいて協力してくれているということを忘れずに。勉強の途中であれば、「今、いいですか？」と尋ねる心遣いをして下さい。

(2) 先生方や院生に相談する場合は、最低限の準備や勉強をしたうえで相談しましょう。「ネタを下さい」、「どうすればいいですか」と丸投げされると相談されたほうが困ります。

## 〈参考資料〉

### I. 文献調査と入手について

#### 1. 日本語文献

- (1) 単行本：OPAC や Webcat 等を利用して図書館などで探す。
- (2) 学術雑誌論文：『史学雑誌』の「回顧と展望」、『日本歴史学界の回顧と展望』、『西洋史学』の目録などを利用する。また、Magazine Plus や CiNii のようなオンライン・データベースを検索するのも有効。

#### 2. 外国語文献

- ・ イギリス史・イギリス帝国史の文献を探すにあたっては、**Bibliography of British and Irish History** が網羅的で不可欠のデータベースである。以下のウェブページの〈Enter Database〉をクリックしたうえで、〈Bibliography of British and Irish History〉のリンクからアクセスすること（学内のみ利用可）。URL= <http://www.brepolis.net/>

また、英国図書館（British Library）のカタログや COPAC を使って文献を探す方法もある。

**British Library Integrated Catalogue:**

URL= [http://catalogue.bl.uk/F/?func=file&file\\_name=login-bl-list](http://catalogue.bl.uk/F/?func=file&file_name=login-bl-list)

**COPAC:** URL= <http://copac.ac.uk/>

- ・ アメリカ史の文献については、*Journal of American History* や、*American Historical Journal* のウェブサイト（阪大学内で利用可）から、索引を検索することをお薦めする。

- ・ ドイツ語の論文については、**Historische Bibliographie** からドイツ史の各種論文について調べることができる。また、**Historische Zeitschrift** 掲載の論文は、同雑誌の Register で検索。Register は5年に一度刊行される（最新版は2003-07年）。オンラインでは以下のウェブページからで最新号の目次と、同ページの「Archiv」のリンクからバックナンバーの論文も見られる。

URL= <http://www.oldenbourg-wissenschaftsverlag.de/olb/de/1.c.335311.de>

- ・ フランス語の文献にかんしては、日本の Webcat に相当するもので、未公刊の博士論文に関しても、要約をすることができる。URL= <http://www.sudoc.abes.fr/>  
あとBNF（フランス国立図書館）では、最近、主要な一次資料のデジタル化が進んでいるので、ネットで、一部の本や新聞雑誌記事を読むことが可能。URL= <http://www.bnf.fr/>

- ・各雑誌の「書評」や Book Reviews のコーナーで最近の研究所を確認する方法もある。

※外国語雑誌が研究室や学内の他の部局になく、かつオンライン・ジャーナルを利用できない場合は、図書館の参考係（日本で所蔵されているかどうかは、Webcat もしくは『学術雑誌総合目録』）で調べる。国や分野によってはネット等での検索も可能。

### 3. 文献の入手方法

阪大が所蔵していない文献の場合、他の大学の図書館にあるかどうかを調べる。あれば、図書館2階にある参考係に行って参考係を通じて貸し出しもしくは複写を依頼する。

参考係の使い方については、係りの方に直接聞いてもちろんかまわないが、研究室の院生が非常に詳しいので（時として係りの人以上に）、彼らをつかまえて教えてもらうのがよい。

## II. 論文とはなにか

以下では、鈴木雄雅氏の『大学生の常識』を参考に論文とは何か、論文作成の基本的な手法を説明、紹介する。これがすべてではないのであくまでも参考程度に。

### 1. 論文

- ①論点や問題点の提起がなされ、自己の創意から出た仮説を事実によって論述し結論を引き出すもの。
- ②一定の形式を備え、かなりの分量を有し、各方面からの批判を加味して書き上げられたもの→阪大西洋史では原稿用紙 50 枚相当。
- ③学術論文とは、自分の研究の結果を論理的な形で表現したもの。

### 2. 研究論文の資格のないもの

- ①一冊の書物や一篇の論文を要約したものは、研究論文ではない。
- ②他人の説を無批判に繰り返したものは、研究論文ではない。
- ③引用を並べただけでは研究論文ではない。
- ④他人の業績を無断で使ったものは、“剽窃”であって、研究論文ではない。

### 3. テーマの見つけ方

- (1) 興味の対象を明確にする。
- (2) 問題点を探す。
  - ①通説の誤りを見いだす。

- ②通説で欠けているところを見いだす。
- ③通説に何かを付加する。
- ④新しい解釈をする。
- (3) 焦点を絞る。課題から本題へ。教授にぶつかろう。

#### 4. 自分の扱う論文のトピックを確定する前に

- (1) このトピックの研究に必要な材料があるか。
- (2) 自分の力で扱いきれるか。
- (3) 新しい研究トピックであるか。
- (4) 自分はこのトピックに興味関心を持っているか。
- (5) 意義のある研究トピックか。

#### 5. テーマは細かくしぼること

自分がその研究のために、情熱を燃やすことのできるテーマ、自分のエネルギーを注ぐに値するようなテーマを選ぶことが大切。

- (1) 自分のテーマに関連する分野の学術雑誌に早くから親しんでおくこと。
- (2) 教師の指導を受けること。
- (3) 大学の卒業論文のテーマを過去にさかのぼって研究すること。
- (4) テーマを選んだ根拠をはっきりさせること。

#### 6. 文献の精読

- (1) まず概説書の「注」や「参考文献」にあげられている文献に注目。
- (2) 次に、専門書に当たれ。
- (3) 最後に論文を読め。
- (4) 雑誌も馬鹿にはできぬ。

→最終的には註をつけることを考慮し日頃からデータを PC やカード等で整理しておくこと。

#### 7. 必ず原典に当たれ

引用されているものは「孫引き」せず、必ず原典に当たれ。

二次史料から安易に引用するな。

安易に図表などを「孫引き」するな……数値やデータはその著者が解釈して図表化したものであるから、論述と展開が異なれば意味も違ってくる。できるだけ原資料に当たれ。

#### 8. 資料の信頼性

- (1) 資料の出所を確かめること。
- (2) 論旨に飛躍はないか。

1. 大切なのは、論文全体がわかりやすく書いてあり、構造的に組み立てられていること。
2. 横道にそれて、なにが幹なのか分からなくなっちゃいけない。
3. 話の筋道が明確でなければならない。
4. 論文は主張や意見の明示されたものでなければならない。
5. 冷静な表現でなくてはならない。理路整然と真面目な文章でなくてはならない。
6. 結論に至る経過が明らかでなくてはならない。
7. 冗漫や過度の修飾語はいらない。

9. 一般的注意

- (1) 文字は辞書に当たれ。
- (2) 俗語、卑語をつかうな。
- (4) 修飾語はなるべく使うな。
- (5) みだりに線や傍点をつけるな。

10. 論文の文章でつねに次のことを頭におけ。

- (1) 読む人（読者）がいる。
- (2) 自己の主張を明確に。一つでも、二つでもどこかに“独創性”の光を放て。
- (3) 説得力のあるものを。
- (4) できるだけ凝らないで、自然のままの文章を書く。
- (5) 難解な言葉は出来るだけ少なくし、いま世の中で使われている言葉を使うようにする。
- (6) できるだけ使える言葉の数を多くする。
- (7) 文章のテンポは短く、書き方に工夫を凝らす。
- (8) 山場はどこか。結論が先か、結論があとか。
- (9) 余韻を残す文章を。→この意見には賛否両論あり。注意。